

かけがえのない経験

宮崎市立生目台中学校 3年 富永 アライア 美優

私がこの大会に出場したのは初めてでした。正直、自分の出した結果に100パーセント満足できたとは言えません。しかし、今の結果に納得している自分もいて、それがとてつもなく悔しいです。もっと自分に実力があれば、もっと努力をしていれば、自信をもって自分が一番だったと言えたかもしれません。

この大会で得た経験は、わたしにとってかけがえのないものです。これまで出会ってきた同年代の人たちの中で、一番私の努力を認めてくれる場所でした。私の努力や考えを馬鹿にしてくる人がいない、そんな場所でした。本当に幸せで何もかもが新鮮でした。ですが、それと同時に、自分よりもはるかに高いレベルの人たちに出会って、委縮している自分がいます。ここでは本気で努力しても勝ち残れる確証はない、と感じました。それほどレベルの高い大会でした。

この大会は私に世界の広さを教えてくれました。あのレベルまで到達している人たちと競い合えた自分を誇りに思います。私のかけがえのない経験です。これからも自分の力を伸ばしていこうと強く思います。

高円宮杯を終えて

宮崎市立生目台中学校 教諭 日高 美穂

はじめに、高円宮杯という貴重な場に私を連れて行ってくれた富永さんに感謝したいと思います。富永さんが弁論で全国を目指し始めたのは、昨年の宮崎県暗唱大会で第1位を獲得した後です。ステージの上では非常に堂々としている富永さんですが、学校生活ではあまり表に出るタイプではなく、非常に高い英語力を持っているにも関わらず、自分に自信が無いようでした。その富永さんが昨年の暗唱大会で評価されたことで、自分の日々の努力が実ったことを実感し、もっと英語を通じて広い世界に羽ばたきたいと思うようになった点は、彼女の弁論でも語られている部分です。富永さんが弁論で伝えたいことを掘り下げていく中で、彼女が幼少期から経験してきた辛いことを表現する必要がありました。自分のネガティブな部分をさらけ出すことはとても勇気のいることです。しかし彼女は、自分が周囲の支えを得ながら力強く変わっていく様子をととても生き生きと表現し、さらには自分の生き方を肯定する素晴らしい弁論を書き上げました。

さて、ここからは高円宮杯で私が感じたことを書きたいと思います。まず一番驚いたことは、運営が全て日本学生協会（JNSA）基金本部役員にゆだねられている点です。参加生徒の管理、会の運営、審査員への対応等、このような大規模な大会を学生が運営しているという点に非常に驚き、また多くの役員がこの大会への参加経験者であることに納得しました。今回の参加者の中にも将来役員として運営に携わりたいと憧れを持つ生徒がいるであろうと思います。大会のレベルは非常に高く、内容もユニークなものが多くみられました。自分の日々の生活から生まれた悩みや葛藤、自身の成長やアイデンティティーに関するもの、社会的な話題など多岐にわたり、簡単に比較し優劣をつけることは難しいと思いました。英語の表現に関しては皆一様に素晴らしく、とても自然な英語を話していたと感じます。そこで、審査員は何を重視しているのだろうか、という疑問が湧きます。本部から送られてきた審査票のスコアを見ると、スコアに大きなばらつきがありました。大会期間中、教育者会議にて審査委員長の松坂先生の講演を聞く機会に恵まれました。松坂先生によると、審査員同士でジャッジのすり合わせはしないのだそうです。つまり、どの発表にどのようなスコアを付けるかは完全に個人の判断に任されているようです。さらに松坂先生によると「現在は皆素晴らしい英語をしゃべり、内容也非常に良い。ジャッジを分けるのはDELIVERYです。」だそうです。DELIVERYの指導など自分にできるのだろうか、と非常に困惑しました。

高円宮杯に参加し、私自身多くの刺激を受けましたが、おそらく富永さんにとって今大会は非常に大きな意味を持つものだと思います。一番の収穫は、彼女が自分と同じように高いレベルを目指して頑張る仲間に出会えたことではないかと思っています。